



神奈鍼会報

第 171 号
令和 3 年 3 月 31 日発行

発行人 一般社団法人 神奈川県鍼灸マッサーヂ師会 会長 伊勢山 竹 雄 編集者 太田 修 二
〒231-0065 神奈川県横浜市中区宮川町 2-55 ルリ工横浜宮川町 304
TEL.045-242-7790 FAX.045-242-7791 E-mail: kanasin@apricot.ocn.ne.jp

コロナ禍で苦悩される会員の皆様へ

会 長 伊勢山 竹 雄

日頃より神奈鍼事業に対し、ご理解とご協力を賜り感謝申し上げます。

令和 2 年度において神奈鍼の活動はコロナ禍におけるイベントの中止、自粛等で執行の難しい 1 年でした。

これらの未執行业業予算精査し、この余剰金を如何に活用すべきか考慮した上で神奈鍼といたしましては「特措委員会」（委員長 梅田理事、委員 松野理事、米田理事、川口理事）を設置し、審議した結果、これを原資に「コロナ感染対策費」名目で全鍼師会年会費の半額（正会員 5,000 円、準会員 2,500 円）を助成することに決定しました。

尚、送金は令和 3 年 3 月 25 日までとし、師会単位、師会宛となりますのでご了承ください。

まだまだコロナ禍の影響が継続すると思われませんが、皆様におかれましては、どうか健やかにこの難関を乗り越えられることを心よりお祈り申し上げます。

コロナなんかに負けないぞっ！



第26回日本災害医学会総会・学術集会での発表

朝日山 一 男
榎 本 恭 子

2021年3月15日(月)～3月17日(水) 国際医療福祉大学東京赤坂キャンパスにて、第26回日本災害医学会総会・学術集会が開催されました。朝日山一男・榎本恭子は、令和元年東日本台風(以下:台風19号とする)の支援活動の報告及び各地で災害研修を実施した実態等、演題3題発表したもので報告する。

①台風19号「支援者・受援者の両視点から災害を見つめる」

筆頭演者: 榎本恭子 朝日山一男

発表者である榎本恭子は、東日本大震災から台風19号まで支援側として全国の災害地を28回に渡り支援活動を行って来た。しかし、台風19号により、川崎中原区にて、弟のマンションが水害により全壊の被害を受け、受援者側に回るようになった。



被災現場には今まで一緒に支援活動を行ってきた仲間が駆けつけ、片付けをして頂いた。また、全国の仲間から沢山の支援物資が届いた。更に、支援を行って来た全国の被災者の方々からお手紙や激励の品を頂戴した。感謝の気持ちで頂いた支援物資を基に炊き出しも行った。



皆様の真心が被災者の復興の後押しになった。

支援者と受援者の両面からの体験から、平素からの顔の見える関係が被災時の支援につながることや誰もが支援者にも受援者にもなりうることを発表した。

②台風19号「災害支援報告と地域住民との連携の重要性」

筆頭演者: 榎本恭子 朝日山一男

台風19号の被害を受けた川崎市の実態をDSAM(災害支援鍼灸マッサージ師合同委員会)の先遣隊として視察した。その中から地元議員、高津区町内会の会長や多くの行政からの支援を頂き、高津区の避難所、被災家屋、公民館で鍼灸マッサージの支援活動を行うことができた。

この活動は、地域における住民の方々の鍼灸マッサージに対するニーズの高さ、地域包括を始め日頃の行政との結びつき、さらに地元の町内会の皆様の理解が支援活動に結びついた。その実態を報告した。



③「災害研修は災害に対する最高の武器」

筆頭演者 朝日山一男、榎本恭子

災害研修は、DSAM災害研修・全国の各県師会講座・鍼灸マッサージ専門学校での授業・地域のサロン「寺子屋」等で災害研修を行った。



研修を通じ参加者の災害に対する意識の向上と地元行政や防災関係者と認識を新たにし、避難計画や避難所運営等を話し合うことにもつながった。

災害は、まさか自分に被害が及ぶことは考えないことが多いが、災害の実態を知ってもらうことで、「災害は起こるもの」と意識変革となり、平時の生活上より「備えの大切さ」を伝えながら実施してきた内容を報告した。



神奈川でも災害協定を結ぶにあたり、研修は重要である。災害支援方法も東日本大震災とは、大きな違いが出ている。被災地に迷惑をかけない支援方法が確立されつつある中で、研修を通じて県内でも支援の方法を確立する必要がある。全国からの支援を効率よく問題なく受け入れるためにも、災害は、多岐に渡り考えること・考えさせられることがある。朝日山63回、榎本が28回に渡り支援してきた経験を生の声として伝えることで、参考にしてもらえればと思い発表させて頂いた。



同好会活動報告

福利厚生部 梅田 春樹

令和2年度における同好会活動はコロナ禍の影響でボウリング部、サップ部、サーフィン部、食文化研究部の4部は活動自粛を余儀なくされた1ヶ年でした。

活動再開については来期に期待いたしております。

唯一の活動はゴルフ部で次の通りご報告いたします。

●鍼灸マ有資格者ゴルフ大会 令和2年11月12日(木) 会場/伊勢原CC

参加者 梅田(勲)、荒川、小川、田中(裕)、後藤(竜)、梅田(春)



早く活動再開できるようになると良いですね。
ゴルフ部はアプローチの練習、ボウリング部はコントロールアップ、SAP部は体幹トレーニング、サーフィン部は筋トレ、食文化研究部は世界の美味しい食べ物の調査などなど、再開の日のために準備しておきましょう！



総務部より ●●●●●●●●●●

杉山祭縮小開催 および 杉山検校座像除幕式について



春暖の候、時下ますますご清祥の段、お喜び申し上げます。

平素は神奈鍼会務に関し格別のご協力を賜り、ありがたく御礼申し上げます。

さて、毎年恒例の杉山祭、懇親会の縮小開催予定をご案内いたします。

「杉山祭」は江戸時代鍼灸・あん摩師のリーダーとして社会貢献し、管鍼法の考案という偉大な功績を遺された杉山和一検校の遺徳をたたえ、その墓前にはあはきの技の切磋琢磨を誓うものであります。

今年度は新型コロナウイルス感染防止のため墓前、神前、懇親会ともに参加人数が限られますので、残念ながら神奈鍼役員ほか少数の参加で開催を予定いたします。また懇親会については中止とさせていただきます。

このような厳しい状況ではありますが、令和2年度には地元藤沢師会のご努力下江島神社近くに杉山検校座像が完成し、杉山祭当日には除幕式も予定しています。新型コロナウイルス感染防止にご配慮の上、お時間のあるときに江ノ島までお出かけいただければ幸いです。

なお、新型コロナウイルスの感染状況によっては昨年同様延期または中止することもあります。

「3密」の時代に「三密」を考える

冬の間は暖かく心地よかったマスクも、気温の上昇と共に少し煩わしくなってきた。今年は春の訪れが少し早いような気がする。日が長くなってくると気分も上がる。暑からず寒からず、1日の仕事終わりに仲間とお疲れ様の1杯には最高の季節のはずが、家で静かに缶ビールをグビリとやる。



そういえばこの1年、患者さんとの会話で新型コロナ関連の話題が出ない日は1日もないなあと振り返る。常に“コロナ”という鬱陶しいお荷物をズルズルと引きずっていて、四季折々の風情の味わいを台無しにされている。

徐々に感染者数は少なくなってきたとはいえ、1回目の緊急事態宣言時に比べてはるかに多い。間もなく2回目の緊急事態宣言が解除されそうだが、引き続き感染防止対策は徹底していきたい。

感染防止対策のひとつ「3密（密閉・密接・密集）」は、昨年の新語・流行語大賞



に選ばれた。小池都知事が指を3本立てて「みつつの密」というフレーズも印象に残る。一部では「集・近・閉（密集・接近・閉鎖空間）」で「しゅうきんぺい」とも言われていたが、「3密」の方が浸透したようだ。三大〇〇や三人娘・御三家、労働環境の3Kや結婚相手の3高、アベノミクスの3本の矢など、何かを3つ揃えることがよくある。今回の「3密」は言い得て妙だと思う。

「3密」といえば、空海が興した真言宗、真言密教には「三密」という言葉がある。身密（しんみつ）・口密（くみつ）・意密（いみつ）で「三密」である。ここでの「密」は「密教の密＝仏の教え」と考える。



身＝行動・口＝発言・意＝心、つまり人間の行いに対しての三カ条の教えである。この三つを正しくすれば仏の境地に近づいたことになると言われている。この三つが正しくなるということは、他人に思いやりを持って接することだと考える。

コロナ禍の今、正にこの「三密」の教え



が大切なのではないかと思う。身勝手な行動や偏見差別などがニュースで報じられるたびに心が痛む。すべての人に仏の境地になりなさいとは言わないが、少しでも優しい気持ちになってくれればと思う。が、この窮屈な状況では爆発したくなる気持ちもわからなくもない。心のキャパシティは人それぞれなのだ。

空海が真言宗を興した平安時代には、不慮の死を遂げた者



の御霊（ごりょう）の所業で天変地異が起ると考えられていたそうだ。御霊の祟りを防ぐために鎮魂の儀礼「御霊会（ごりょうえ）」が行われるようになったとのこと。

後に各地方の寺社へ広がり、天変地異や疫



病などを防ぐための行事が行われ今に伝わっている。しかし、そんなありがたい行事もことごとく中止となり、神頼みもさせてもらえないのかと哀しい気持ちになる。全くもって厄介なヤツが出現したものだ。

だが「三密」の教えからすれば「ウイルスも生きていくのに一生懸命なのだから、互いに上手に生きていく方法を見つけようではないか」と考えるべきなのだろうか。

ウイルスも「人間に迷惑をかけるから地面の奥深くで生活をしていこう」と思いやりを持って人と接することができれば殺されずに済む。もしかすると自分の居場所を探している最中に人間社会に現れてしまったのかも知れない。問答は重なる…。

こうなれば、この苦境で精神修養は良いチャンス！

とも思うが、煩悩が多すぎる私にとってはなかなか難しい。日本最古の歴史書と



される古事記には、煩悩満載の神々達のどろどろとした関係が綴られている。神でさえそうならばいわんや人間をやである。そんな神々が造り出した人間だもの、仕方がない。

今も昔も人間社会の普遍性を感じずにはいられない。

マック スケタダ 記



IZANAMI&IZANAGI

